

★★★ <第12回知的財産翻訳検定【第7回和文英訳】試験>問題 ★★★

<<1級課題 - 機械工学 ->>

問1

次の請求項1～2を、米国出願に適する形で英訳してください。

【請求項1】

第1の方向に積み重なる多層構造体の基板の反りを解析する基板反り解析システムにおける基板反り解析方法であって、分割部が、前記第1の方向と交差する第2の方向に延びる層内に、異なる物性である第1の物質層と第2の物質層とを有する場合、前記基板の形状を表わすモデルデータをこの第1の物質層と第2の物質層の境界部分で前記第1の方向に仮想的に切断して、複数の分割パーツに分割するステップと、演算部が、多層ばり理論に従い各分割パーツの反りを算出し、この反りに応じて各分割パーツを仮想的に変形させるステップと、結合変換部が、前記変形された分割パーツを仮想的に結合させて基板を形成するとともに、前記分割パーツのそれぞれの反りに基づき前記基板全体の反りを算出するステップとを備えることを特徴とする基板反り解析方法。

【請求項2】

前記分割部は、前記第1の方向の長さである第1の物質層の高さが異なる場合、前記第1の物質層と前記第2の物質層の境界部分で、前記基板の形状を表わすモデルデータを、前記第2の方向に仮想的に切断して、複数の前記分割パーツに分割することを特徴とする請求項1に記載の基板反り解析方法。

問2

次の文を米国出願用英文明細書の従来技術を記載する文章として英訳してください。原文にとらわれすぎず、執筆者の意図が正確かつ解り易く伝わる翻訳を心がけてください。

【従来技術】

【0002】

従来、トランクリッド後端やバックドア後端にエアスポイラを取り付けて、走行中の車体廻りの空気流を整流し、車体の安定化や燃費軽減が図られていた（例えば、実開昭58-30578号公報参照）。

【発明が解決しようとする問題点】

【0003】

しかしながら、上記したエアスポイラは、車体外表面の目に付きやすい部分に取り付けられるために、自動車の外観を著しく損ねてしまう欠点があり、また車体後部のリアスカートが、下面から後端部にわたって曲成されているために、車体下方の床下流が車体後部上方に向けて流れ、ルーフ及び前記エアスポイラに沿って車体後部後方に向けて流れる上部流と前記床下流とが比較的高い位置で合流してしまい、よって上部流と床下流とに囲まれたリアウインドからリアスカートに亘る車体後部表面上略全域に乱流を生じさせ、車体後部表面の汚れ付着度合が他の表面に比べて高く、非常に汚れ易いという欠点もあった。

問3

次の文のうちの***START ***から***END***までを米国出願用英文明細書の実施例を記載する文章として英訳してください。英訳にあたっては図1、図2および段落【0013】の記載を参考にしてください。原文にとらわれすぎず、執筆者の意図が正確かつ解り易く伝わる翻訳を心がけてください。

【0013】吸着ハンド4は、ステージ7に設けられたレール（図示せず）にガイドされていて、ステージ7上を水平X方向に往復動する。吸着ハンド4の往復動は、モータ7aの回転をベルト7bを介して伝達することによって制御する。

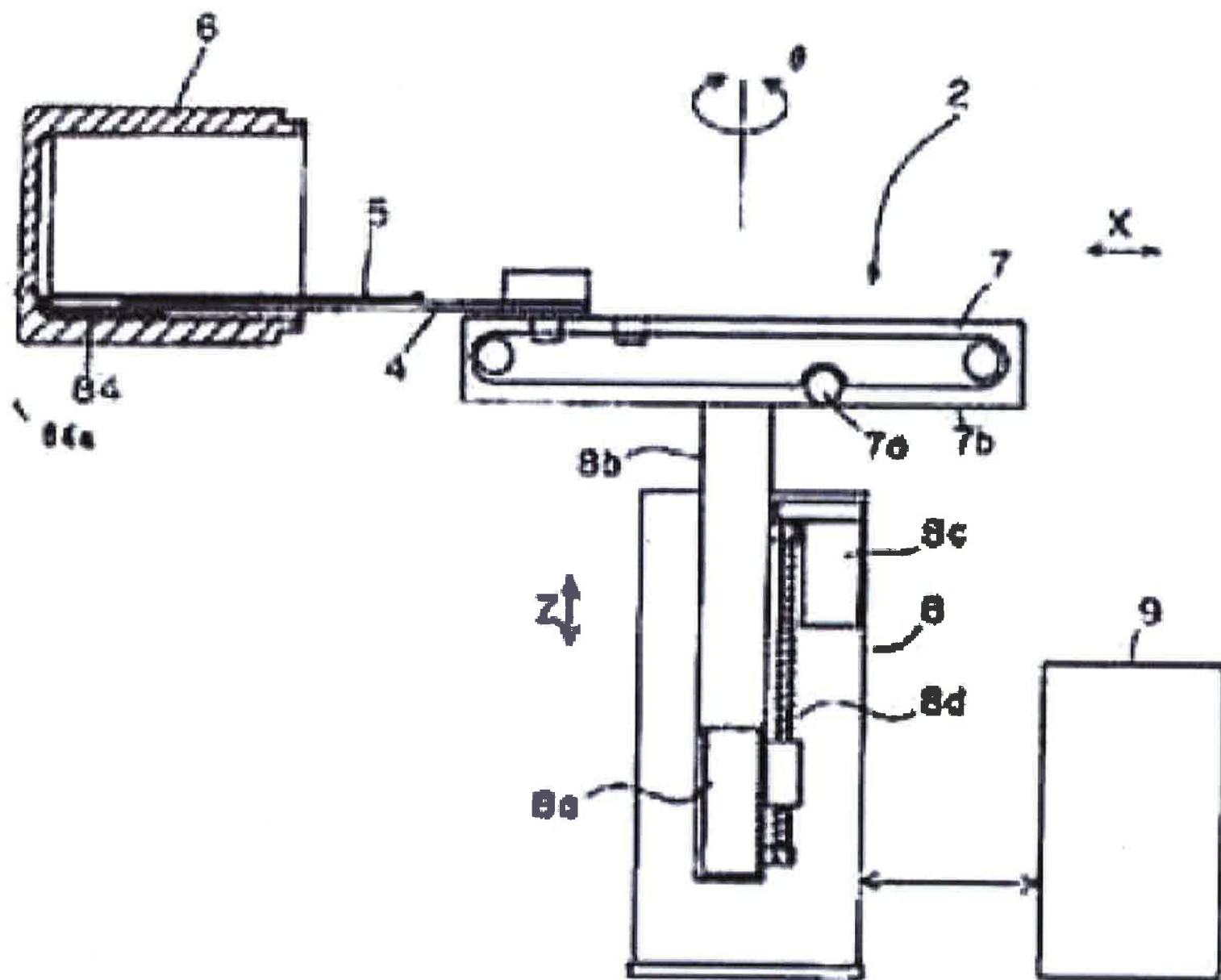
***START ***

【0014】ステージ7は、基台8内に設けられたモータ8aによって軸8bを中心として自在に回転し、基台8内に設けられた別のモータ8cの回転を垂直往復動に変換する伝達機構8dによって軸8bごと垂直Z方向に上下動する。コントローラ9は、各モータ7a、8a、8cを駆動しつつその制御信号をモニタし、吸着ハンド4を所望の位置に制御しつつ移動させる。

【0015】ハンド本体14の上面に設けられた真空チャック24を動作させることによって、ガラス基板5がハンド本体14上に固定されるので、吸着ハンド4の旋回等の動作にともなってガラス基板5が落下したり位置ズレすることを防止できる。ハンド本体14の先端部には、樹脂製の突起部84aを備えるスライドストッパ84が形成されている。このスライドストッパ84は、搬送用カセット6内に進入させた吸着ハンド4を後退させる際に、この吸着ハンド4上方にあるガラス基板5の奥側の端部に引っ掛かって、このガラス基板5を輸送用カセット6外に確実に引き出す。

END

【 1 級 / 機械工学 / 問 3 / 図面 1 】



【1級／機械工学／問3／図面2】

